



平城遷都 1300 年祭 平城宮跡会場の 南都銀行ブースで、吉野産材の魅力を紹介

吉野桜井木材成年クラブ（会長：松原 剛）は、有数の木材産地である吉野、桜井の製材所、林業関係者の 15 団体・個人が参加し、吉野産材の素晴らしさを多くの人に知ってもらおうと平成 20 年 10 月に発足した。

昨今の木材業界は衰退しており、このままでは業界全体が崩壊してしまうのではないかと、皆が危機感をもっていたのが、発足のきっかけ。

高度経済成長期に、吉野産材は杉を中心に住宅用建材として高く評価され、隆盛の時代を迎えた。しかし、1986 年に木材の輸入関税が引き下げられたことにより外材が大量に輸入され、吉野産材の価格は下落し、産業として低迷してきた。

最近の建築主、工務店、設計士は木材に触れる機会が少なく、木に対する知識も乏しくなった。同クラブは、こういう状況を打破しようと、県産木材の展示や、森林や製材所への現地案内などを通して「実物に触れる」機会を提供している。

その一環として、平城遷都 1300 年祭平城宮跡会場に訪れる多くの人たちに吉野産材を体感してもらおうと、5 月 10 日から 30 日まで、エントランス広場の南都銀行ブース（出展参加ホール内）での吉野産材の展示、説明に協力した。

ホールの一角に樹齢 15 年程度の吉野杉の苗木 20 数本で「吉野の森」を再現。吉野杉、吉野ヒノキで作られた畳大のパネルが床に敷き詰められ、靴を脱いで床に上がり、木の温もりを肌で感じる事ができる木工品コーナーも設けられた。

展示会場は「Yoshino Heart（吉野ハート）プロジェクト」^(※)を支援している南都銀行が用意

し、同クラブが展示物を制作した。

訪問者に吉野産材の良さを熱心に説明する松原会長は、「この展示を通じて吉野産材のファンが増え、それが木材業界の発展や雇用の拡大につながればと期待している。」と話した。

（上田 祥博）



吉野杉の苗木で「吉野の森」を再現



吉野産材の良さを説明する吉野桜井木材成年クラブのメンバーと南都銀行のスタッフ

（※）「Yoshino Heart（吉野ハート）プロジェクト」とは、吉野産材を使った木製品に冠する「Yoshino Heart」というブランドの普及を通じ、森林整備と林業などの活性化をめざすプロジェクト。

これからの催し

●阿紀神社 あきの蛭能

日時：6 月 19 日 18：00～

催事場（会場）：阿紀神社能舞台

演目の途中で照明を落とし、^{かがりび}篝火のみが燃えさかるなか、数百のホタルが放される。乱舞するホタルは薪能の幽玄の世界に新たな彩りを添える。

交通：近鉄大阪線榛原駅から大宇陀行バス

乗車 大宇陀高校前下車徒歩 5 分

問合せ先：あきの蛭能保存会

（宇陀市商工観光課）

TEL：0745-82-2457